日本経済新聞

記事利用について

空撮技研、農薬散布用ドローン発売　教習・整備にも対応

2016/8/13 6:00｜日本経済新聞　電子版

小型無人機（ドローン）を使った事業を展開する空撮技研（香川県観音寺市）は農薬散布用のドローンを発売した。空中散布に必要な農林水産航空協会（東京・千代田）の認定を得るため教習を開くほか、機体の点検や修理なども手掛ける。農薬散布で主流の無人ヘリコプターより小回りが利き、小型のため事故リスクが低い点を農家などに売り込む。

ドローン製造のエンルート（埼玉県ふじみ野市）の機体を販売する。直径は140センチメートルほどで、重さは4.5キログラム。タンクに５リットルの農薬を積み込み10分間飛行できる。１分間で10アールに散布できる。12日に観音寺市内の水田に水をまく試験飛行を公開した。

機体の価格は200万円（税抜き）。このほか機体の登録費（２万2000円）が必要となる。定期点検パック（年１回８万円）も設けた。1400万円ほどする無人ヘリに比べ安く、運搬も容易という。

空撮技研は農薬散布用のドローンの教習施設や整備施設の認定を農林水産航空協会から受けた。四国では初めてという。座学や実技講習など３日間の教習（18万円）を今月から観音寺市で随時開く。試験を通り協会の認定を経れば、国土交通省から飛行の承認を得て農薬散布に使える。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.